

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：北海道開発局建設部地方整備課

担当課長名： 渋谷 元

事業名	主要地方道 釧路環状線	事業区分	地方道	事業主体	北海道																											
起終点	自：北海道釧路市武佐 至：北海道釧路町別保原野			延長	1.9 km																											
事業概要	<p>主要地方道釧路環状線は釧路市大川町から釧路市鳥取大通を結ぶ延長約19kmの幹線道路であり、釧路都市圏総合交通体系調査の中で、釧路市内の交通・物流拠点であるJR釧路駅、釧路港、北海道横断自動車道釧路IC等を連絡している環状道路の一つとして位置付けられる重要な幹線道路である。本事業は、釧路市武佐地区から釧路町別保地区の国道44号を直接結ぶバイパスルートを整備し、交通を分散させることによって渋滞を緩和し、円滑な都市交通を確保するとともに高次医療施設である市立釧路総合病院へのアクセス向上に大きく寄与するものである。</p>																															
H10年度事業化	S37年度都市計画決定 (H7年度変更)	H11年度用地着手	H13年度工事着手																													
全体事業費	77億円	事業進捗率	94%	供用済延長	0 km																											
計画交通量	6,000～7,000台/日																															
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">B/C</td> <td style="text-align: center;">(事業全体)</td> <td style="text-align: center;">2.0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(残事業)</td> <td style="text-align: center;">25.3</td> <td></td> </tr> </table>	B/C	(事業全体)	2.0	(残事業)	25.3		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">総費用</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/ (事業全体)</td> <td style="text-align: center;">6.3/80億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(事業費)</td> <td style="text-align: center;">4.4/78億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(維持管理費)</td> <td style="text-align: center;">1.9/1.9億円</td> <td></td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/ (事業全体)	6.3/80億円	(事業費)	4.4/78億円		(維持管理費)	1.9/1.9億円		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">総便益</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/ (事業全体)</td> <td style="text-align: center;">159/159億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(走行時間短縮便益)</td> <td style="text-align: center;">136/136億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(走行費用減少便益)</td> <td style="text-align: center;">13/13億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(交通事故減少便益)</td> <td style="text-align: center;">10/10億円</td> <td></td> </tr> </table>	総便益	(残事業)/ (事業全体)	159/159億円	(走行時間短縮便益)	136/136億円		(走行費用減少便益)	13/13億円		(交通事故減少便益)	10/10億円		基準年	平成19年
B/C	(事業全体)	2.0																														
(残事業)	25.3																															
総費用	(残事業)/ (事業全体)	6.3/80億円																														
(事業費)	4.4/78億円																															
(維持管理費)	1.9/1.9億円																															
総便益	(残事業)/ (事業全体)	159/159億円																														
(走行時間短縮便益)	136/136億円																															
(走行費用減少便益)	13/13億円																															
(交通事故減少便益)	10/10億円																															
感度分析の結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">交通量変動</td> <td style="text-align: center;">: B/C=2.2 (交通量 +10%)</td> <td style="text-align: center;">B/C=1.8 (交通量 -10%)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">事業費変動</td> <td style="text-align: center;">: B/C=2.0 (事業費 -10%)</td> <td style="text-align: center;">B/C=1.8 (事業費 +10%)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">事業期間変動</td> <td style="text-align: center;">: B/C=2.0 (事業期間 -20%)</td> <td style="text-align: center;">B/C=1.8 (事業期間 +20%)</td> </tr> </table>					交通量変動	: B/C=2.2 (交通量 +10%)	B/C=1.8 (交通量 -10%)	事業費変動	: B/C=2.0 (事業費 -10%)	B/C=1.8 (事業費 +10%)	事業期間変動	: B/C=2.0 (事業期間 -20%)	B/C=1.8 (事業期間 +20%)																		
交通量変動	: B/C=2.2 (交通量 +10%)	B/C=1.8 (交通量 -10%)																														
事業費変動	: B/C=2.0 (事業費 -10%)	B/C=1.8 (事業費 +10%)																														
事業期間変動	: B/C=2.0 (事業期間 -20%)	B/C=1.8 (事業期間 +20%)																														
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（現道の混雑区間において旅行速度の改善が期待される） 安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設「市立釧路総合病院」までのアクセスが向上） <p style="text-align: right;">外 5項目に該当</p>																															
関係する地方公共団体等の意見	釧路地方総合開発期成会及び釧路市から毎年整備促進の要望を受けている。																															
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	事業採択時より再評価実施時までの周辺環境の変化は特にない。																															
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成19年度までに、用地補償99%、橋梁工95%、改良・舗装工事87%進捗している。残事業は、橋梁上部工及び舗装工事約1.3kmである。																															
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	事業着手後、地権者が死亡し相続手続きに時間を要したが、平成19年度中に用地買収が完了したところであり、今後事業が遅延する要因がないことから、平成20年度の完成が見込まれる。																															
施設の構造や工法の変更等	再生材の使用及び不良土の再生利用、軟弱地盤対策の地盤改良工法の変更などにより約4.7億円のコスト削減を図っている。																															
対応方針	事業継続																															
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。																															
事業概要図																																

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。